

地域とともにある

勢いのある学校

No. 14 (R2. 8. 20発行) 文責 校長 福田雅也

高き志【こころざし】

「かけがえのない時間」を大切に

「每晚きつと言ってやるんだ。『ずーっと ずっと大好きだよ』で」

このフレーズをみただけで、聞いただけで、涙腺が緩んでしまうのは私だけではないと思います。絵本「ずーっとずっと大好きだよ」の最後の場面です。説明するまでもないかもしれませんが、少年と愛犬エルフとの心温まる触れ合いと、避けることのできない死別をえがいた絵本で、子供はもちろん大人にとっても心動かされる素晴らしい作品です。今は国語の教科書にも使われており、子供たちは1年生の終わりごろにこの物語を学習します。その他にも、教科書に使われている絵本は多く、「スイミー」「おてがみ」「ごんぎつね」等が有名でしょうか。

絵本には素晴らしい魅力があります。一人で読み進める読書と異なり、親子で同じ絵を見ながら、読み聞かせをしたり、一緒に読んだりできるという点です。小学校低学年くらいまでは、絵本を通して我が子との「かけがえのない時間」を過ごすことができるのです。

我が家は、一人っ子であったため、今思うと本当にあつという間の短い子育て期間でした。そんな子育て期間の幼少期にできるだけやっていたことの一つに絵本を読んであげることがあります。我が家では、たくさんの種類の絵本を読んであげていたわけではなく、持っている同じ絵本を繰り返し読んでいたように覚えています。「三匹のやぎのがらがらどん」「ぽんぽんはなんのおと」等を読んでいたことは今でも覚えています。その時は、子どもを教育しているという意識はほとんどなく、子どもが喜ぶので読んでいたという感じでした。我が子の今の姿から考えると、このことが成長のプラスになったのかどうかは甚だ疑問ですが、少なくとも、親子にとって「かけがえのない時間」だったと感じることはできます。

高木小では、母親部による読み聞かせボランティア「ピノキオの会」の方々が、定期的に絵本の読み聞かせをしていただいています。今年度はコロナ禍によりスタートが遅れておりましたが、2学期から始められる予定です。いつも、優しい語り口で素敵な絵本を読んでいただいている様子と、子どもたちが食い入るような表情で聞いている姿を、私も嬉しく見させていただいております。

前任校では、私自身が校内放送をとおして読み聞かせをする機会がありました。どんな本にしようかとずいぶん迷いましたが、絵も含めて、子どもたちの心に響くものがないかと思い、「えんとつ町のプペル」という本を選びました。作者が芸能人であり、マスコミ等でも取り上げられていたのでご存知の方も多いのではないかと思います。

読んだ後は、大反響でした。途中まで読んで、「残りを聞きたい人は校長室に来てください。」と伝えましたところ、たくさん子どもたちが校長室にやってきました。絵本ですから、低学年の子どもたちが中心でしたが、お話の続きを食い入るように聞きながら、「これがゴミ人間かー」、「きれいな絵だね」と、様々な感想をつぶやいてくれました。数日後には、「お家の人にこの本を買ってもらった」と話してくれた子どももいました。反響が大きかったので、学校でも新しく購入し、図書室にも置きました。たくさん子どもたちが興味をもったり読んだりしてくれ、絵本の世界の素晴らしさを改めて感じる機会になりました。

今日の始業式では「えんとつ町のプペル」も紹介し、「2学期は、絵本や本をたくさん読んで、心を豊かにする学期にしてください。」と子どもたちに伝えました。

保護者の方々には、この学校便りを機会に、私はもう二度と味わうことができない、子どもたちとの「かけがえのない時間」を、十分に味わい、大切にさせていただければなあ、と願います。